

光村図書は、 「情報モラル」を どう扱ってるの？

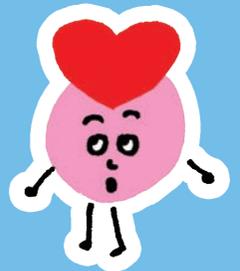


一人一台端末の時代、
さまざまな情報機器を利用したインターネット上の
コミュニケーションが、より身近で重要になってきました。
一人一人が自分で考え、適切に判断し、行動できるよう、
光村図書では、次の3つのことを大切にしました。



情報モラルに向き合う

学年ごとに、関連する内容項目を通して、
情報を巡る課題と向き合えるよう、ユニット構成としました。



その学年で、考えられることをしっかりと

発達の段階を考慮し、
その学年に適した問題を系統的に取り上げました。



デジタルシチズンシップを意識して

情報機器を否定的に扱うのではなく、これからのデジタル社会に、
前向きに関わっていこうと思える問いを設定しました。

3

デジタルシチズンシップを意識して

情報モラルの学習では、「長時間使ってはいけない」「むやみに情報を公開してはいけない」など、「～してはいけない」という禁止事項が先に立ちがちです。しかし、これからの時代を生きていく児童は、情報機器やインターネットとの関わりを避けて生活することができません。そこで、情報機器やインターネットと、前向きに関わる態度を育めるよう、教材やコラムの問いかけを見直しました。

令和
2年度版

情報と向き合う

インターネット上のマナー

インターネットは、いつでも、だれとでもやり取りができる、たいへん便利なものです。ここでは、インターネットを利用するときのマナー(礼儀)について考えてみましょう。

【話し合ってみましょう】

インターネットの特性から、インターネット上に情報を発信したり、インターネット上でやり取りしたりするときに、気をつけなければならないことは何かを考えましょう。

インターネットの特性には、次のようなものがあります。

※顔を合わせない——非対面性

日常までの会話とちがって、インターネット上でのやり取りでは、目の前に相手がいなくても、相手の表情や反応を見ながらやり取りすることは、基本的にありません。したがって、相手の表情や反応を見ながらやり取りすることは、基本的にありません。したがって

インターネットには、いつでも、だれとでもやり取りできる以外に、次のような特性もあります。

非対面性 直接顔を合わせなくてもいい

インターネット上でのやり取りでは、目の前に相手がいなくても、相手の表情や反応を見ながらやり取りすることがむずかしい場合があります。

匿名性 「この「だれか」が分かりにくい

インターネットは、自分の名前を記さないまま、利用することができます。

拡散性 情報が急速に、多くの人に広がっていく

インターネット上に流れた情報は、対面するときよりはるかに速いスピードで、より多くの人へと広がっていきます。

【話し合ってみましょう】

インターネット上に書き込みをする人と、書き込みにコメントをする人が、おたがいに気持ちよくインターネットを利用するには、どんな考えが必要でしょうか。



情報モラル教育には、保護者の方々の協力が欠かせません。問いの最後に、「家庭との連携」マークを付けて、保護者の方々といっしょに、情報機器との関わり方について考えることを促しています。

